

やまぐちっ子学力向上だより

第 106 号 R2.2.3
山口県教育庁義務教育課

山口県学力定着状況確認問題の結果を公表しました。

前回に引き続き、今回は中学校の結果について御紹介します。

◆中学校 平均正答率

| | 国語 | 数学 | 社会 | 理科 | 英語 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 第1学年 | 61.3% | 60.0% | | | |
| 第2学年 | 50.1% | 55.0% | 44.9% | 49.8% | 56.6% |

◆教科の問題結果から見られる特徴

| | | 主な成果 | 主な課題 |
|-----|----|--|---|
| 中学校 | 国語 | ○文脈に即して、適切な語句を選択すること ○内容を的確に捉え、必要な情報を取り出すこと | ●伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くこと ●表現の意図を理解して説明すること |
| | 数学 | ○計算のきまりにしたがって計算をすること ○表から読み取った事柄を的確に評価すること | ●基準量を基に比較量を求めること ●事象と式の対応を的確に捉え、文字式の成り立ちを説明すること ●判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること |
| | 社会 | ○人々の暮らしと気温図を関連付けて選択すること ○太閤検地と刀狩を兵農分離と関連付けて理解すること | ●資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報を関連付けて説明すること ●正長の土一揆の意義について複数の資料をもとに適切な語句を入れること |
| | 理科 | ○音を高くする条件に合う実験方法を適切に選択すること ○化学式を見て単体か化合物かどうかを判別すること | ●グラフから物質の密度を読み取る方法を説明すること ●資料を活用して火成岩の特徴から岩石の種類を判別すること |
| | 英語 | ○日常的话题について、情報を正確に聞きとること ○基本的な語や文法事項を理解して、会話の中で適切に使うこと | ●文脈に合うように内容を考えて、基本的な文法事項を活用し英文を書くこと ●聞いて把握した内容について、適切に応じること |

国語 中学校2年生 25 正答率：10.2%

- 表現の意図を理解して説明することに課題が見られる。

【話合いの場面の一部】の で木下さんは「いつしか二人は仲よしになっていました。」という表現と「いつしか二人は仲よしになってしまいました。」という表現との違いを説明しようとしています。あなたなら、どのように説明しますか。「を予想させる」とつながるように、七字以内（句読点も文字数に含む）で書きなさい。

「いつしか二人は仲よしになっていました。」という表現では、二人が仲よしになったという事実が述べられているだけなのに対して、「いつしか二人は仲よしになってしまいました。」という表現では、この物語の を読者に予想させます。

【正答例】 悲しい結末

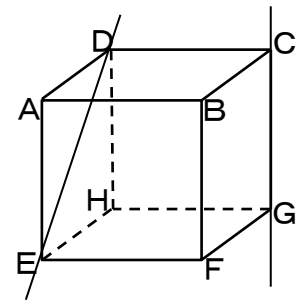
学習のポイント：提示されている文の伝わりにくさの原因を踏まえて、解決方法を考えることができるように指導することが大切です。伝わりにくさを解決するために必要な手立てを考え推敲し合う活動を仕組みましょう。

数学 中学校2年生 6 正答率：22.2%

● 立方体の面上の直線と直線の位置関係について説明することに課題が見られる。

右の立方体において、直線DEと直線CGは交わりますか。次のア、イの中から正しいものを1つ選び、解答用紙の記号を○で囲みなさい。またそれが正しいことの理由を説明しなさい。

- ア 直線DEと直線CGは交わる
- イ 直線DEと直線CGは交わらない



【正答例】面AEHDと面BFGCは平行で、直線DEと直線CGはねじれの位置にあるから直線DEと直線CGは交わらない。

学習のポイント：見取り図は、点や辺の位置がわかりやすい一方で、点・辺・面の関係や長さがとらえにくく、かかっている図と具体（立体模型等）を行ったり来たりしながら理解する必要があります。実際に模型を使いながら説明する場面を設定することが大切です。

紙面の都合上、全ての問題を紹介することはできませんが、課題の見られた問題については各学校で確認し、今後の取組につなげていただければと思います。

岩国市立麻里布小・中 公開研究発表会について

11月14日に、岩国市立麻里布小学校・中学校にて主体的・対話的で深い学びに関する公開研究発表会（文部科学省事業）が開催されました。この研究は、2年間の指定を受けて行われており、義務教育9年間で育てたい資質・能力を小・中学校で共有し、その資質・能力を身に付けさせるために必要な学習内容や学習活動を見直してきました。

思考ツールを用いて、児童生徒の学びを豊かにする取組は、各地域で小中連携を進めていく上でとても参考になる取組でした。また、田中博之先生（早稲田大学）に講演していただき、麻里布小・中学校の取組を評価していただきました。



〈課題解決に向けた言語活動を位置付けた授業づくりのスタンダード〉



フローチャートを用いてたくさんの考えをつなげ班の意見を練り上げる様子



マトリックスを用いて図形の性質を見だし、その性質が正しいことを説明し合う様子